阿智村事務事業評価シート

事務事業名	家庭介護者休養支援事業	担当者	民生課　　福祉係

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	2. だれもが健康で、心安らぐ村／福祉・健康・医療の充実／高齢者福祉
関連する主な計画等	
根拠法	家庭介護者休養支援事業実施要綱
実施方法	☑ 直接実施　☐ 業務委託　☐ 補助金交付　☐ 負担金　☑ その他
事業の対象者	介護度3以上の要介護者を家庭で介護している方
事業開始年	平成16年度　☐ 時期不明　事業の終期　☐ 終期未定

②事務事業の計画（PLAN）、取組（DO）

実施目的	介護者の慰労と在宅介護の推進を図る。
具体的取組	1月1日と7月1日を基準日として、それ前6ヶ月間、1か月15日以上家庭で介護している場合に、1か月あたり5，000円を単位に月数分の介護者休養券と現金を支給。 介護券は、額面1枚を1，000円として、次のサービス料を村が請求者に支払う。 代替介護　1回5，000円　　入浴　1回500円 介護補助　1回3，000円 マッサージ　1回2，000円
実績・効果	要綱の見直しを行い慰労金が支払われることとなり申請された方には支給することができ、これまで介護券は使われなかった方にも効果があった。 該当者数　212名　（前期90名、後期　82名） 申請者数　136名　（〃　72名、〃　60名） 介護慰労金支払額　3，102，000　円 入浴券　387，500　円 マッサージ　574，000円 代替介護　659，000円 介護補助　51，000円 計　1，671，500円 （使用率　53．9%）

歳出の内訳（千円）	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	印刷代	22				
	扶助費	4,774				

事業コスト	区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額（千円）		3,306	3,137	4,796	6,000	6,000
		うち一般財源	3,306	3,137	4,796	6,000	6,000
		うち補助金					
		うち個人負担					
	従事職員（人）	正規職員					
		臨時職員					

③評価（CHECK）

区分		個別判定	判定理由	総合判定
必要性	住民のニーズは高いか	a	在宅で介護されている方の慰労になる	A
	手段、成果は妥当か	a	半額を現金で支給。	
	対象者の設定は妥当か	a	要綱で基準を明確にした。	
	村の関与は妥当か	a	村が実施する事業である。	
有効性	期待された効果が得られたか	介護券の利用方法が分かりづらいという意見あり		B
効率性	コストの削減に努めたか	a	コストを削減するとサービス低下になる	B
	効率性を高める工夫はされたか	b	ケアマネが関与し対象者への普及を図る	
公平性	受益者負担は適切か	半額を現金で支給したことで申請があった方には恩恵が受けられた。		B

総合評価	B

④改善（ACTION）

事業の方向性	拡充
課題	基準日に要介護者が亡くなっている場合、介護券の利用が減る。介護券の使途が限定されるため使いづらいという声があり、事業者の請求期限が明確でない等の課題有り。
今後の取り組み	介護券の内容、使途について検討する。